

令和3年(2021年)度 地域連携活動報告書

連携先名称：JA 東京中央会・日本ユニシス株式会社

協定締結日：2018年12月27日

活動状況：終了

連携先窓口： JA 東京中央会 会長 須藤正敏 様

日本ユニシス株式会社

サービスイノベーション事業部ファイナンシャル営業部

第2営業所 原田淳範 様

活動資金：アイテムを選択してください。

担当教員(所属)：畑中 勝守・サフィール ラマドナ(国際バイオビジネス学科)

活動体制(単位)：学科

関連教員(所属)：山田崇裕(国際バイオビジネス学科)

活動目的：

「江戸東京野菜の普及推進にむけた生産、加工・販売、支援の諸条件の解明」
江戸東京野菜の生産消費の持続可能性を探り、東京産野菜全体のブランド化を支える一分野として育成する。

活動内容・成果：

1. 江戸東京野菜を食材として活用する飲食店の経営実態と価値向上にむけた加工方法の決定要因の解明
 - 飲食店3店舗でのヒアリング調査(練馬区、中央区、墨田区)
 - 実施期間：2021年度(複数回)
2. 収穫時期、生産量、揃い、品質等、青果商及び加工業者の取扱のインセンティブ要因の解明
 - 江戸東京野菜の流通を担う3社(卸売業者、仲卸業者)のヒアリング調査
 - 実施期間：2021年度(複数回)
3. 生産者の経営調査、関係組織による支援の調査
 - 練馬大根、伝統小松菜の生産者にヒアリング調査
 - 練馬区行政、JA東京中央、JA東京むさしの調査
 - 実施期間：2021年度(複数回)

<成果>

(1) 卒業論文

- ① 木林暉 (2022) : 「江戸東京野菜の経営実態及び収益化条件～伝統小松菜を事例に～」、『2021 年度国際バイオビジネス学科卒業論文』、全 34 頁.
- ② 中村奏絵 (2022) : 「江戸東京野菜の卸売業者の実態と流通システムの解明」、『2021 年度国際バイオビジネス学科卒業論文』、全 78 頁.
- ③ 野島規晃 (2022) : 「江戸東京野菜に対する消費者の認知、購入、消費行動とそれに基づく生産者の経営行動」、『2021 年度国際バイオビジネス学科卒業論文』、全 82 頁、2021 年度国際バイオビジネス学科卒業論文学科長賞受賞.

(2) 学会報告

- ① 野島規晃・山田崇裕 (2021) : 「都市地域における伝統野菜の生産、販売の現状と生産拡大に向けた課題-江戸東京野菜の練馬大根を対象として-」『2021 年度実践総合農学会（厚木大会）報告要旨集』、実践総合農学会第 1 回優秀研究報告賞【学生部門】受賞.

課題・改善点：

本研究は学生教育の一環として、受託研究者の研究室に所属する学生と共同で実施した。今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、調査研究手法の要となる現地ヒアリング調査を十分に実施することができなかった。